

鞆の琴形橋

福山大学工学部 正員 井上矩之

1. はじめに

福山市鞆で、狭隘な街路の混雑緩和を目的の1つとして、県道を改良する事業が推進され、その一貫として鞆港に架橋する計画がある。鞆港は風光明媚な自然と、万葉の時代にまで遡る歴史を持ち、瀬戸内海の観光・文化の中心地の1つとして将来発展する可能性を秘めており、この橋を含めた港の景観は、その価値に大いにかかわる重要課題である。そこで本文では、鞆の風土という観点からこの橋の幾何学的形態を考察し、「鞆の琴橋」を提案する。

2. 考察の前提条件としての鞆の風土

鞆及び鞆の属する福山市の歴史的風土の特色、福山市内での他の地域と比較した鞆の特色を列挙し、橋の形態考察の前提条件を整理する。

①鞆は動力船出現以前の海上交通の要地であった。

大友旅人(665-731)の短歌に「鞆の浦」という地名の入ったものが何首か残されており、万葉の時代から港として利用されていたことがわかる¹⁾。足利尊氏は、九州より京都に攻め上る途中、光厳院の院宣を鞆港で待った¹⁾。江戸幕府新將軍への祝賀使節である朝鮮来聘使が寄港している²⁾。

②鞆の伝統産業に次のようなものがある。

鞆の保命酒(“江戸時代後期、諸国に名が高かったものに鞆の保命酒があった。”²⁾ 頼山陽が銘酒記に記した保命酒²⁾、鞆鍛冶、鞆の鯛網漁などがある。

③福山は琴との関わりが強い。

和楽器である琴の全国一の卓越した生産地である(現在約70%を産する³⁾)。

“琴も流行し、幕末には琴の師匠も繁昌し、盲目の勾当葛原重美を生んでいる。---十五歳で勾当の位階を許されて、帰郷して広く備後・備中の子女に教え関西における名手として聞こえた。”²⁾と福山市史、中巻、音曲の項に記されている。

④鞆は箏曲の作曲家・名演奏家宮城道雄にゆかりの地である。

彼は神戸市生まれであるが、父は鞆の人で、先

祖代々の墓は鞆の南禅坊と円福寺にある³⁾。平田等は“さて「春の海」を聞くと、のどかな春の海の景色が鮮やかに浮かんできて、心おおらかになるのである。---これほどまでにのどかな春の海を表した曲も少ないし、鞆の浦の情景そのものである。宮城道雄が福山に住んだという記録もないし、「春の海」の舞台が鞆の浦であるという定かな証拠もない。でもふるさとを思い、瀬戸内海を旅した時に浮かんだのは、のどかな鞆の浦の春の海だったのではないだろうか。”³⁾と述べている。

⑤福山市内の他の地域と比較した鞆の景観の特徴

日本鋼管に代表される工業地域の「工場・煙突-人工的、直線的、男性的」に対し、鞆は「海・湾・港・舟・島-自然的、曲線的、女性的」な感じがする。また、対潮楼の「日東第一形勝」額が物語るように古来より自然景観が賞賛されていた。

3. 橋の形態についての考察

1)通常の形状の橋(斜張橋、つり橋など)か個性的な形状の橋かという命題については、次節に記述する理由により、後者をとりたい。

2)ではどのような形状が考えられるか。前節で整理した鞆の地縁の特色より考察する。

まず、①より、海上交通機関の船、特に帆船のような非動力船をイメージする形状が考えられる。しかし、遣唐使船とか天竜寺船のような有名な非動力船は、出発港である難波・兵庫や、中継港の博多・坊津にあってもよく、また、瀬戸内海の他の港でも可能で、特に鞆だけのものではない。

②より、酒瓶・徳利など酒器をイメージする形状が考えられるが、鞆特有ではない。薬用酒ということから、何種類かの薬草をイメージさせてもよいが、これも例えば徐福伝説のある紀州新宮市との競合がある。鍛冶、鉄製品についても競争相手が多く、福山市内でも草戸千軒遺跡周辺での活用の方がハタであろう。鯛網船は観光漁業の1つとして保存され、既に鞆の地縁文化の代表となっており、その上さらに利用するのは重畳に過ぎないか。

③の福山市と琴の地縁、④の鞆と琴の地縁から、琴をイメージさせる形状が考えられる。例えば、竜甲（胴）のふくらみの曲線の高欄への活用、琴柱の曲線の橋脚・高欄への活用、十三本の弦をイメージする高欄・ケーブルの活用などである。

3) 琴の名演奏は京都や東京でも聞くことが出来る。しかし、琴の製造や琴の神様宮城道雄の地縁で福山の鞆は他の地域より卓越している。特に、福山邦楽器製造業協同組合が小・中学校への琴の無料貸出や、全国的なコンカルの主催を行い、琴音楽の発展に積極的に取り組んでいる姿勢は、他の追従を許さない。琴こそ福山の、そして鞆の地縁文化の代表である。全国で唯一の、つまり世界で唯一のものといっていよい。これに反して、例えば瀬戸大橋でその美しさを披露した斜張橋を取り入れることも一案であるが、斜張橋は全国、さらに世界中のあちこちに架橋されており、鞆の斜張橋が瀬戸大橋の斜張橋、淀川の斜張橋、ライン川の斜張橋などと比較して、人々からより賛美され、より話題を集めるのは容易でない。

4) 琴をイメージさせるのであるから、当然サウンスアップ（聴覚で感じる風景）を考慮することができる。例えば横浜にある林をイメージさせる橋のように、自動車騒音と振動のエネルギーを吸収して、「春の海」の和音を奏でさせることが可能である。

5) 威風堂々とした男性的・直線的な斜張橋はそれ自身が鞆港の景観の主人公になってしまい、前述⑤の特色を殺してしまう。琴橋といえども鞆港の景観の主人公を要求してはいけなない。現在の自然景観の中にささやかに納まるべきであろう。

4. 時代循環の位相からみた鞆の琴橋の意義

土木事業の動機となる“外力”には周期的に変動する要因が多い。短い周期のものとしては、経済変動、大地震などがある。1世紀以上数世紀にわたる周期のものとしては、対立の時代→政治の時代→経済の時代→文化の時代と4サイクルで循環する人々の価値観の展開、国際化の時代→鎖国の時代と2サイクルで循環する展開などがある。10世紀以上の長い周期のものとしては、異国の文化文明を押しなまま取り入れ社会制度から生活習慣まで総合的に変革しようとする時代と、後にそれまでのわが国の制度・習慣と弁証法的に融合させてしまう時代の、2サイクルで循

環する模倣の時代→習合の時代の時代展開がある。

このうち、琴との関連では、4サイクルの価値観の時代循環と2サイクルの国際化鎖国化の時代循環が関係が深い。

1) 4サイクルの価値観の時代循環については、現在は経済の時代から文化の時代への曲がり角に差し掛かっているようにみえる。経済の時代の論理であった効率追求（直線的な高速道路、東海道新幹線の統一的な橋梁など）一辺倒から、美観重視の設計、個性を主張する投資への合意が得安い時代になってきた。曲線的で女性的なものもこの時代では大いに賞賛されるはずである。琴の地縁性、曲線美はこの時代背景に適合している。

2) 2サイクルの国際化鎖国化の時代循環でみると、現在はもちろん国際化の時代のまっただ中にある。外国人のなかには、日本の優秀な技術やマニピュレーションを学びたいという表面的なことだけではなく、さらに奥深くその背景にある日本の文化から理解しなければという気持ちを持つ人が増えて来るだろう。また、労働のため日本に移住、日本文化に直接遭遇する人が増える傾向にある。その中で、邦楽への関心も高まるだろう。邦楽の中で琴は気品があり女性に好まれる。かつて国内だけの武道であった柔道が国際的な武道に普及した例もある。福山で琴を重視することはこの時代背景にも適合している。

5. むすび

宮城道雄と鞆、琴生産と福山市という二重の地縁を活用するため、琴をイメージする橋「鞆の琴橋」を提案した。鞆にだけしかない橋で世界の注目を浴び、鞆の発展に寄与して欲しいものである。

琴のイメージなど主観的に把握したに過ぎないので、今後客観的にみた分析を行っていきたい。また、琴の本体の曲線を活用する場合、非対称な構造物となる。従来、土木構造物は対称形がほとんどで、非対称形は見かけない。非対称構造から人々が受ける印象の心理分析も行いたい。

引用・参考文献

- 1) 森本繁：鞆の浦、歴史紀行4、芦田川文庫、昭和61年
- 2) 福山市史編纂委員会：福山市史、近世編、昭和53年
- 3) 平田勉、関原彰三：琴の響、福山邦楽器製造業協同組合、昭和63年3月